

2022/3/6

ヨハネの手紙第一 講解メッセージ⑮

『願いを聞いてくださる』 I ヨハネ 5:14-21

■神のチャレンジ

「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださると
いうこと、これこそ神に対する私たちの確信です。」(I ヨハネ 5:14)

イエス・キリストを信じている者は、イエス様と共に生きています。神様のチャレンジとは、「あなたはイエス様と共に生きているのだから、あなたの思いをなんでも神に伝えて祈ってごらんください。」というチャレンジです。神様の御心に沿った願いであれば、必ず聞いていただけます。御心に沿った願いでなければ聞かれません。ですから、安心してどんなものでも求めることができます。

神様が「何でも求めなさい」と言われるのは、祈ることを通して神様への信頼を増し加えてほしいと願っておられるからです。神様と私たちは共に生きていますが、一つ屋根の下で暮らす家族であってもコミュニケーションがなければ親密な関係が築けないのと同様に、神様と親密な関係を築くには共に生きるだけでは不十分なのです。求めることで神とのコミュニケーションがスタートします。神はこれを願っておられるのです。

御心でない祈りは聞かれないと教えられているので、自分の願いが御心かどうかかわからないと言って祈ることをためらう人がいますが、平和や魂の救いに関することは神の御心です。心配せずに祈り求めましょう。

「私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでにな
えられたと知るので。」(I ヨハネ 5:15)

さて、私たちの問題は、願うことはできても、信じることができないことです。神のことに応答して祈り求めると、すぐに信じられない自分に気づきます。これが不信仰の罪です。神様はこの時を待っておられるのです。

神様は「不信仰の罪に気づいたら、その罪を言い表しなさい。私が赦して助けてあげるから。」と言われます。ここに神様との共同作業が始まるのです。神様は私たちの不信仰を赦し、私たちが信じられるように助けてくださいます。ですから信じられるようになるまで祈り続けましょう。必ず確信が与えられます。

祈って踏み出しても、誰も「本当に大丈夫かな」という思いになるものです。しかし、確信が来るまで祈るしかありません。神様は私たちに「信じなさい」と語り続けておられます。こうして神との関係が築かれていくのです。あなたはそこまで祈っているでしょうか。

神様が私たちに用意しておられるゴールは、永遠のいのちです。神様のチャレンジは、そ

の永遠のいのちを持っている確信を持てるようにするためにあります。平和は確実に神様の御心にかなう願いです。祈り求め、不信仰に気がついたら神様に助けを求めて、神様との関係を築いていきましょう。

■死に至らない罪と死に至る罪

「だれでも兄弟が死に至らない罪を犯しているのを見たなら、神に求めなさい。そうすれば神はその人のために、死に至らない罪を犯している人々に、いのちをお与えになります。死に至る罪があります。この罪については、願うようには言いません。不正はみな罪ですが、死に至らない罪があります。」（Ⅰヨハネ 5:16-17）

神様は友のために祈るように言われます。きょうだいの救いのために祈ることは、間違いなく神の御心です。

死に至らない罪とは、イエス様を否定していないということです。救いの自覚がない人の中にも、すでに神の呼びかけに応答して救われている人がいます。「反対しない者は味方だ」と聖書は教えていますが、私たちの目にはまだわからなくても救われている人が大勢いるのです。救われ、そして信仰が成長し、それから「イエスは主」と告白できるようになります。私たちができることは、御言葉を届け、救いの自覚に至る手伝いです。それを聖書は収穫と呼んでいます。人を救うのは神様で、救いの自覚に至る収穫は私たちの働きであると言えます。日々救われるように祈っていると、御言葉を伝えるチャンスが与えられ、伝える勇気がわいてきます。本気で祈っていないと、なかなか勇気がわいてこないということも体験できます。

次に、死に至る罪とは、イエス様を否定することです。しかし、この罪に関しても「祈るな」と言われているわけではありません。あきらめずに祈ってもいいのです。なぜなら、神様もあきらめてはいないからです。祈っていれば御言葉を語る機会も訪れます。

友のために祈るのは、御言葉を伝える勇気を持つためです。救いは神様との共同作業です。私たちが救われたのは、誰かが伝えてくれたからです。その人はあなたのために祈ったのです。祈って勇気をもって伝えたのです。ですから私たちは祈るのです。神様の願いは人の救いです。祈って救われるという確信を得たら、御言葉を伝える勇気を持つことができるようになります。「友のために救いのために祈りなさい。そうすれば福音を語れるように私が助ける。そしてその人はいのちを得る。」と神様はあなたにチャレンジしておられます。

■罪について

「罪を犯している者はみな、不法を行っているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。」（Ⅰヨハネ 3:4）

「神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。」(Iヨハネ 3:23)

罪とは律法に逆らうことです。そして、律法の中心はイエス・キリストを信じることです。これに違反することが死に至る罪です。そこから派生する様々な行いの罪は死に至る罪ではありません。イエス・キリストとの再結合を促す聖霊の働きを拒否し、イエス・キリストを拒むことが死に至る罪なのです。

聖書は罪を単数形と複数形に分けています。単数形で表された罪は、神との分離を意味し、イエス・キリストとの結びつきを拒否することを表しています。これが死に至る罪です。聖書が教えている「罪」は、基本的に単数形です。

これに対して、イエス・キリストとの結びつきを拒否しないけれども悪いことをしてしまうこと、これは死に至らない罪であって複数形で表されています。これはイエス様が次のように語っておられることに基づいています。

「まことに、あなたがたに告げます。人はその犯すどんな罪も赦していただけます。また、神をけがすことを言っても、それはみな赦していただけます。しかし、聖霊をけがす者はだれでも、永遠に赦されず、とこしえの罪に定められます。」

(マルコ 3:28-29)

聖霊の呼びかけに応答しているのか、拒否しているのか、これは潜在意識の中のことなので、まわりの人はおろか本人にもわかりません。しかし、私たちは信じることができるようになりました。それは聖霊の呼びかけに応答した結果です。イエス・キリストを受け入れた人は信仰が育っていくので、それによって確認できます。

■偶像を警戒しなさい

「神によって生まれた者はだれも罪を犯さないことを、私たちは知っています。神から生まれた方が彼を守ってくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。」(Iヨハネ 5:18)

イエス・キリストを信じる力は神様から来ています。イエス様を信じている人は、永遠のいのちを持っていて死から命に移されています。神によって救われた人は、たとえどんな悪いことをしてしまったとしても、イエス・キリストを否定することはできません。なぜなら、神様が私たちをまもってくれているからです。

私たちは神からの者であり、世全体は悪い者の支配下にあることを知っています。

「しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。」（Ⅰヨハネ 5:19-21）

私たちがイエス・キリストを信じることができるのは、自分自身の力ではなく、神の力です。それは、あなたがイエス・キリストの中にとらえられていることを意味しています。イエス・キリストこそ、真の神、永遠のいのちです。

この世はイエス・キリストを否定する世界です。それが偶像です。そのような世界の中で、確信を捨てないようにと最後に忠告されています。あなたはイエス・キリストを持っていて、神を持っていて、永遠のいのちを持っているという、この確信から一步も出ることがないよに気をつけなさいと語られています。

ヨハネの手紙Ⅰは、救いのために祈るようというチャレンジで締めくくられています。

祈って確信を持つならば、御言葉を伝える勇気を持てるようになります。そして主と共に収穫する者になろうと神様は語っておられるのです。イエス様を完全に否定している人がいたとしても、祈ってチャレンジしてみることを神様は望んでおられます。それは、神様ご自身もあきらめてはいないからです。

神様の願いは、私たちが神様の思いを共有することです。救われた私たちの中には神の思いが私たちの中にあふれ出てきています。私たちの中には肉の思いと同時に神の思いも確かにあるのです。